

令和2年度

学校評価結果  
(中間評価)

報告書

令和2年度  
広島県立加計高等学校芸北分校

# 目次

1 ページ： 「令和2年度自己評価シート（中間評価）」

4 ページ： 「令和2年度自己評価シート（中間評価まとめ）」

5 ページ： 「令和2年度学校関係者評価シート（中間評価）」

## 令和2年度自己評価シート（中間評価）

|    |     |     |            |      |       |     |      |
|----|-----|-----|------------|------|-------|-----|------|
| 校番 | 020 | 学校名 | 広島県立加計高等学校 | 校長氏名 | 工藤 宏一 | 全日制 | 芸北分校 |
|----|-----|-----|------------|------|-------|-----|------|

| 学校経営目標   |                      |      |     |      |    |  |             |
|--|----------------------|------|-----|------|----|--|-------------|
| 達成目標   | 評価指標                 | 前年度  | 本年度 |      | 評価 | 理由   | 担当部等        |
|  |                      | 実績値  | 目標値 | 実績値  |    |  |             |
| <b>(1) 『知・徳・体』 バランスのとれた生徒を育てる学校</b>                          |                      |      |     |      |    |  |             |
| <b>■ 授業を大切にし、授業に真剣に取り組む生徒を育てる。</b>                           | 授業満足度 (%)            | 93   | 95  | 92.7 | B  | 1 学期末アンケート調査により昨年度と比較し同程度であったが、「あなたは学校行事が人格形成に役立っていると思いますか」の質問項目では0.3 ポイント下がった。コロナ禍の影響で学校行事ができなかったことが原因だと伺える。教員のていねいな指導が必要である。 | 教務          |
| <b>■ 自らを律し、基礎的 생활習慣の身に付けさせる。</b>                             | 頭髪・服装指導や特別な指導の対象者の件数 | 10   | 0   | 5    | B  | 前年値と比較して改善が見られたため。   | 生徒指導        |
| <b>■ 部活動の活性化を図り、集団の中で責任ある行動をとらせる。</b>                        | 部活動の加入率 (%)          | 100  | 100 | 100  | A  | 目標値を達成しているため。  |             |
| <b>■ 高等学校間の連携推進事業の取組を通して、異文化を持つ学校と協働することで、自らの学校に誇りを持たせる。</b> | 取組後のアンケート (%)        | 92.5 | 95  |      | N  | (アンケート未実施)<br>※新型コロナウイルスの影響で学校間交流が未実施。   | 生徒指導<br>生徒会 |
| <b>■ 業務改善を意識した働き方を推進することで生徒と向き合う時間を確保することができる。</b>           | 教職員アンケート (%)         | 90   | 90  | 90   | A  | 校務支援システム等の活用により、合理的・効果的な業務を推進することができた。   | 教務          |

### 【評価結果の分析】

- 授業満足度のポイントが減少している。1 か月半の臨時休業によって、行事等の変更や縮小があるため、例年以上に生徒の指導を丁寧にする必要がある。
- 部活動については全校生徒が大いに活動している。
- 高等学校間の連携事業において自らが積極的に参画している。
- 業務改善の意識改革をより徹底させる。

### 【今後の改善方策】

- 生徒を指導する時間に限りがあるが焦らず、丁寧に行う必要がある。
- 幅広い入学生生に対応するために教室内習熟度別学習を行う。
- 携帯電話によって大きな事件や事故につながる可能性があることへの指導の徹底。
- 引き続き、全校生徒が部活動に加入する体制を継続する。
- 後期においても異文化交流等が計画されている。生徒への準備等を計画的に行う。
- 進路指導、部活動指導等の時間をさらに充実させる必要がある。

| 学校経営目標   |                  |      |      |      |    |  |      |
|--|------------------|------|------|------|----|--|------|
| 達成目標   | 評価指標             | 前年度  | 本年度  |      | 評価 | 理由   | 担当部等 |
|  |                  | 実績値  | 目標値  | 実績値  |    |  |      |
| <b>(2) 地域を愛し、地域から愛される生徒を育てる学校</b>                          |                  |      |      |      |    |  |      |
| <b>■ 生徒指導部を中心として全教職員が温度差なく同じ方針で指導できる体制を確立する。</b>           | 生徒アンケート (%)      | 83.5 | 100  |      | N  | (アンケート未実施)   | 生徒指導 |
| <b>■ 学校生活に喜びを感じる生徒を増やし、学校不適応を減少させることができる。</b>              | 生徒の平均欠席日数        | 2.8  | 3以下  | 1.22 | A  | 各学年の平均欠席日数, 1年 1.89, 2年 0.97, 3年 0.7                       | 保健   |
| <b>■ 保小中高の異年齢集団での教育を充実させ、自己存在感を醸成し、キャリア教育の推進を図ることができる。</b> | 連携した行事・会議の回数(回)  | 27   | 27   | 15   | B  | 年間行事予定を基に中高合同行事等各種行事や会議を実施した。業務改善の一環として、会議を合理化させ回数を減らしている。 | 教務   |
| <b>■ 連携型中高一貫校として、芸北中学校との行事・部活動を充実させることができる。</b>            | 連携した行事・部活動の回数(回) | 96   | 90以上 | 50   | B  | 年間行事予定を基に各種行事や部活動を実施し、高校生活の在り方について学ばせ、芸北中学校からの進学率を向上させている。 | 教務   |

#### 【評価結果の分析】

- 通信制高校へ転学した生徒は、1年生1名、2年生1名であり、1年生は、学校になじめなかった。
- 1年生の主な欠席は、転学前の欠席、けがによる入院であり、そのほかの生徒は平均1.06日である。
- 2年生の主な欠席は、転学前の欠席であり、そのほかの生徒は平均0.67日である。
- 多様化する生徒への生徒指導体制をより意識統一する。
- 学校生活を送るうえでの意識付けと自己の健康管理が大切である。
- 保小中高の異年齢集団での教育活動は十分行えている。

#### 【今後の改善方策】

- 毎年入学してくる生徒に対しての指導と合わせて、教職員の意識統一が重要である。
- 芸北分校における3年間の生活を各自に描かせる必要がある。
- 会議等は合理的に連携する。
- 高校0学期がスタートしている。今後、合同部活動や行事を通して芸中生のやる気をさらに向上させる必要がある。

| 学校経営目標   |   |     |     |      |    |   |      |
|--|---|-----|-----|------|----|---|------|
| 達成目標   | 評価指標  | 前年度 | 本年度 |      | 評価 | 理由  | 担当部等 |
|  |   | 実績値 | 目標値 | 実績値  |    |   |      |
| <b>(3) 真の進路希望の実現に向けて真摯に取り組む生徒を育てる学校</b>                              |   |     |     |      |    |   |      |
| <b>■ 全教職員がキャリア教育の概念を共有し、生徒の真の進路希望の実現に向けて、生徒・保護者と協働することができる。</b>      | 進路検討会、生徒との面談、三者懇談 (回)                         | 20  | 15  | 16   | A  | 進路検討会議では教職員間での情報共有に努めた。保護者とも密に連携をとり、取り組むことができた。 | 進路   |
| <b>■ 地域・社会における自らの役割について考え、その内容を論理的に議論するためのコミュニケーション能力を高めることができる。</b> | 学習座談会 (回)                                     | 10  | 12  | 10   | B  | サマーセミナーにおいて、地域社会を考えさせる場面も作ることができた。              | 進路   |
| <b>■ 生徒が、学力の向上について自ら手応えを感じながら、確かな学力向上を図ることができる。</b>                  | 1年生(1月)2年生(1月)の模試の偏差値(国・数・英)45以上の生徒の人数の割合 (%) | 10  | 25  | 15.4 | B  | 2年生 35名中5名<br>2年生 36名中6名                        | 進路   |
| <b>■ 生徒の真の進路希望を実現することができる。</b>                                       | 進路希望(第1希望・第2希望)達成率 (%)                        | 97  | 95  |      | N  | 現在取り組み中である。                                     | 進路   |

#### 【評価結果の分析】

- 進路指導においては、チューター制を採用し、全教職員で取り組むことができている。
- 地域社会における自らの役割を積極的に発信する必要がある。

#### 【今後の改善方策】

- 引き続き、継続して生徒、保護者と連携して取り組む。
- 地域の課題を発見し、一個人だけでなく芸北分校の役割も考える。
- 個人面談等による目的意識の向上を図る。
- 学力の向上について自ら手応えを感じることができる生徒を増加させる。

## 令和2年度自己評価シート（中間評価まとめ）

|    |    |     |                |      |       |   |    |
|----|----|-----|----------------|------|-------|---|----|
| 校番 | 20 | 学校名 | 広島県立加計高等学校芸北分校 | 校長氏名 | 工藤 宏一 | 全 | 分校 |
|----|----|-----|----------------|------|-------|---|----|

## 1 評価結果の分析

## ○ 学校経営目標（1）

- 授業満足度のポイントが減少している。1か月半の臨時休業によって、行事等の変更や縮小があるため、例年以上に生徒の指導を丁寧にする必要がある。
- 部活動については全校生徒が大いに活動している。
- 高等学校間の連携事業において自らが積極的に参画している。
- 「働き方改革」「業務改善」の意識改革をより徹底させる。

## ○ 学校経営目標（2）

- 通信制高校へ転学した生徒は、1年生1名、2年生1名である。いずれも新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業後である。特に、1年生については学校になじむことができなかった。
- 1年生の主な欠席は、転学前の欠席、けがによる入院であり、そのほかの生徒は平均1.06日である。
- 2年生の主な欠席は、転学前の欠席であり、そのほかの生徒は平均0.67日である。
- 多様化する生徒への生徒指導体制をより意識統一する。
- 学校生活を送るうえでの意識付けと自己の健康管理が大切である。
- 保小中高の異年齢集団での教育活動は十分行っている。

## ○ 学校経営目標（3）

- 進路指導においては、チューター制を採用し、全教職員で取り組むことができている。
- 地域社会における自らの役割を積極的に発信する必要がある。

## 2 今後の改善方策

## ○ 学校経営目標（1）

- 生徒を指導する時間に限りがあるが焦らず、丁寧に行う。
- 幅広い入学生に対応するために教室内習熟度別学習を行う。
- 携帯電話によって大きな事件や事故につながる可能性があることへの指導の徹底。
- 引き続き、全校生徒が積極的に部活動に加入する体制を継続する。
- 後期においても異文化交流等が計画されている。生徒への準備等を計画的に行う。
- 進路指導、部活動指導等の時間をさらに充実させる必要がある。

## ○ 学校経営目標（2）

- 毎年入学してくる生徒に対しての指導と合わせて、教職員の意識統一が重要である。
- 芸北分校における3年間の生活を各自に描かせる必要がある。
- 会議等は合理的に連携する。
- 高校0学期がスタートしている。今後、合同部活動や行事を通して芸中生のやる気をさらに向上させる必要がある。

## ○ 学校経営目標（3）

- 引き続き、継続して生徒、保護者と連携して取り組む。
- 地域の課題を発見し、一人だけでなく芸北分校の役割も考える。
- 個人面談等による目的意識の向上を図る。
- 学力の向上について自ら手応えを感じることができる生徒を増加させる。

## 3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策（学校関係者評価実施後に記入する。）

- 遠隔地からの生徒が増加する中、幅広い対応が求められる。生徒の個性を引き出し、特色ある学校づくりを行うことが必要。
- 近年、モノを大事にしない生徒が多いように感じる。家庭での環境によるもの、モノの豊富な時代に育った子の特長かもしれないが残念である。寮、学校において生徒に言い続けることが必要。

## 令和2年度学校関係者評価シート（中間評価）

令和2年11月17日

|    |    |     |            |      |       |   |    |
|----|----|-----|------------|------|-------|---|----|
| 校番 | 20 | 学校名 | 広島県立加計高等学校 | 校長氏名 | 工藤 宏一 | 全 | 分校 |
|----|----|-----|------------|------|-------|---|----|

| 評価項目             | 評価 | 理由・意見  |
|------------------|----|--|
| 目標、指標、計画等の設定の適切さ | A  | ●知・徳・体、地域を愛し、地域から愛される、真の進路希望の実現、目標とするところが良い。また、指標や目標値も具体的でよい。  |
| 目標の達成状況の評価の適切さ   | A  | ●新型コロナウイルスの影響で評価できないものがあるが、仕方ないと思う。その他、評価されているものは適切と考える。   |
| 目標達成に向けた取組の適切さ   | A  | ●新型コロナウイルス対策により、取組ができない項目があり、苦心されていることと思います。できる範囲のことをしっかりやっていたらいい。<br>●分校長を中心に教職員全員が同じ目標に向かって指導していただいていることに敬意を表します。                                |
| 評価結果の分析の適切さ      | A  | ●臨時休業が長く続いたため十分な教育活動がなされていなかったことから、生徒アンケートでは前年度と比べ低い数値となっているが、適切に評価されている。<br>●生徒の欠席日数は目標以下になっており、個々への指導が適正に行われている結果だと思う。引き続ききめ細かな指導をお願いしたい。        |
| 今後の改善方策の適切さ      | A  | ●現状分析をもとにこれからの分校生徒につけていきたい力、方向性、そのための方法がきちんと作られていると思う。<br>●近年、モノを大事にしない生徒が多いように感じる。家庭での環境によるもの、モノの豊富な時代に育った子の特長かもしれないが残念である。寮、学校において生徒に言い続けることが必要。 |
| 総合評価             | A  | ●生徒の一生懸命頑張っている姿に心打たれます。この一生懸命さを大切に今後もお願いいたします。<br>●今回初めて運営協議会のメンバーとなり、色々わかることがあり、ひとつひとつ真摯に取り組んでおられるのが理解できた。  |